

平成 19 年 2 月 6 日

会社名 **株式会社 CSKホールディングス**
 代表者名 代表取締役社長 福山 義人
 問合せ先 執行役員経理部長 熊崎 龍安
 電話番号 03-6438-3030
 (コード番号 9737 東証 第一部)

平成 19 年 3 月期 第 3 四半期連結決算の要旨

◆ 決算ダイジェスト

1. 売上高 (前年同期比 +4.0%)、営業利益 (同 +64.0%)、経常利益 (同 +55.7%) となり、**営業利益・経常利益は、前期 通期実績を超え、第 3 四半期として最高益を更新。**
2. **情報サービス事業**における業績拡大と収益性向上が進み、**安定的事業基盤**として連結業績に貢献。
3. サービスプロバイダーへのシフトを業績面で支える**金融サービス事業**も順調に推移。

◆ 前年同期比サマリー

(単位: 億円)

	2004/12	2005/12	2006/12	前年同期比増減	
				増減額	増減率
売上高	2,473.9	1,710.8	1,778.6	67.7	+4.0%
営業利益	166.9	167.0	273.9	106.8	+64.0%
営業利益率	6.8%	9.8%	15.4%	+5.6%	-
経常利益	192.8	181.4	282.4	101.0	+55.7%
四半期純利益	314.7	206.9	147.9	△58.9	△28.5%

売上高 及び 営業利益 :

- ・売上高は、情報サービス事業におけるASP、BPO、検証サービス、システム開発が順調に推移したこと、及び金融サービス事業が拡大したことにより、1,778.6 億円 (前年同期比 4.0%の増収) となりました。
- ・営業利益は、前述の増収要因に加え、情報サービス事業における収益性の向上及び研究開発費用の減少により、営業利益全体で 273.9 億円 (同 64.0%の増益) となりました。(前期 通期営業利益 251.3 億円)

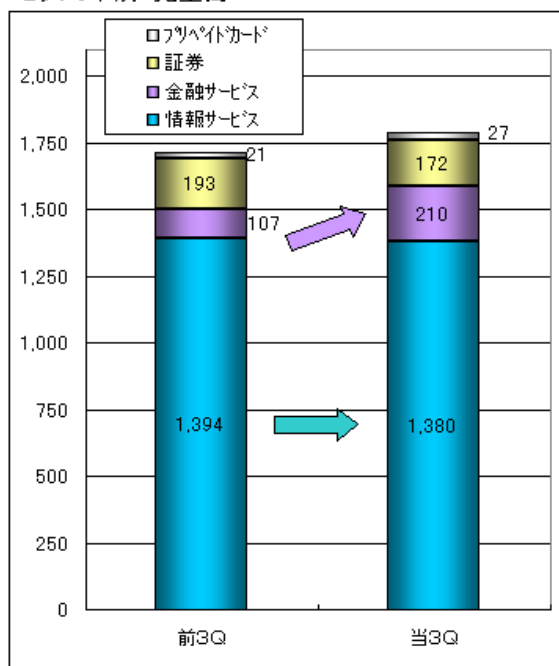
経常利益 及び 四半期純利益 :

- ・経常利益は、営業利益と同様の理由により、282.4 億円 (前年同期比 55.7%の増益) となりました。(前期 通期経常利益 269.8 億円)
- ・四半期純利益は、前第 3 四半期に特別利益として投資有価証券売却益があったこと等により、147.9 億円 (同 28.5%の減益) となりました。

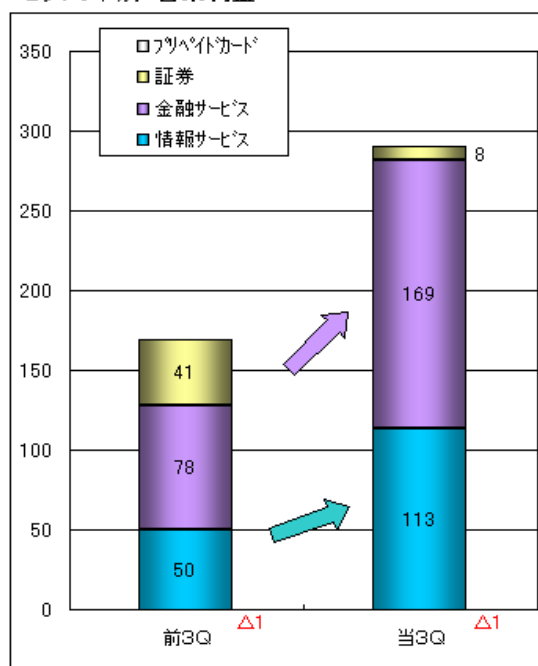
◆ セグメント別 業績（連結）

（単位：億円）

セグメント別 売上高



セグメント別 営業利益



※上表には、消去及び全社は含まれておりません。

<情報サービス事業>

- 売上高は、ASP、BPO、検証サービス、システム開発関連が順調に推移しましたが、機器販売のリプレース需要等の減少により、売上高全体では、1,380.2 億円（前年同期比 14.5 億円（1.0%）の減収）となりました。
- 営業利益は、ASP、BPO、検証サービス、システム開発関連の順調な推移に加え、システム開発の収益性向上、研究開発費用が減少したことから、113.3 億円（同 62.3 億円（122.3%）の増益）となりました。

<金融サービス事業>

- 金融サービス事業では、投資事業が順調に推移したことから、前年同期比で増収・増益となりました。

<証券事業>

- 売上高は、株式及び債券トレーディング収益の減少等により 172.4 億円（前年同期比 20.5 億円（10.6%）の減収）となりました。
- 営業利益は、事業基盤強化・拡大のための人件費、システム関連等の販売費及び一般管理費が増加したことにより、8.9 億円（同 32.5 億円（78.4%）の減益）となりました。

<プリペイドカード事業>

- 売上高は、新たな販路の開拓や導入顧客の増加により 27.0 億円（前年同期比 5.7 億円（26.9%）の増収）となりました。この増収を背景として中長期的成長のための積極的な営業展開を進めており、営業損失 1.5 億円（同 0.3 億円の改善）となりました。なお、経常利益は 7.2 億円（同 0.6 億円（10.1%）の増益）となっております。

◆ 連結業績予想

平成 19 年 3 月期の連結業績の見通しについては、平成 18 年 5 月 9 日に公表した業績予想からの変更はなく、以下のとおりであります。

売上は、顧客企業の I T 投資が活況に推移しており、情報サービス事業が増収になる見通しであります。

営業利益及び経常利益は、情報サービス事業においては、B P O 関連事業の拡大、収益性の改善が進むこと等から、大きく増益になるものと考えております。また、金融サービス事業が引き続き安定的に収益貢献し、営業利益全体では、35.3%の増益となる見通しであります。経常利益についても、営業増益に伴い 29.7%の増益となる見通しであります。

当期純利益は、前期において保有資産の流動化による特別利益を計上いたしましたが、平成 19 年 3 月期は多額の特別利益は想定していないこと等の理由により、減益となる見通しであります。

(単位:億円)

	2005/3	2006/3	2007/3 予想	前期比増減	
				増減額	増減率
売上	3,199.9	2,411.5	2,600.0	188.4	+7.8%
営業利益	240.4	251.3	340.0	88.6	+35.3%
営業利益率	7.5%	10.4%	13.1%	+2.7%	-
経常利益	276.2	269.8	350.0	80.1	+29.7%
当期純利益	333.4	308.7	180.0	△128.7	△41.7%

以上

A S P (Application Service Provider) : I T システム・サービスを従量制により提供する事業者
又は当該サービスを指す

B P O (Business Process Outsourcing) : 効率性向上のために業務を外部企業に委託すること